

茗体会だより

東京高等師範学校体育科
東京教育大学・体育学部
筑波大学・体育専門学群

第5号の内容

- ・特集 「恩師 金子明友先生を偲ぶ」 筑波大学名誉教授 加藤澤男
- ・桐の葉の架け橋（5）「夢があるから強くなる」 公益財団法人日本サッカー協会名誉会長 田嶋幸三
- ・旬：活躍する後輩たち 2024. 9～2025. 8
- ・役員より 感謝・総会提案事項の解説と本会活動に関する依頼事項
- ・新会員の皆様へ
- ・令和7年度 茗体会 総会・懇親会のご案内

【陸上競技部女子】

第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 5年ぶりの総合優勝！**旬**



＜齋藤乃彩＞

学年を重ねるごとに『チームの為に1点でも多く』という気持ちが高まってきたインカレ、今年は副主将*として『私がチームを勝たせる』という強い気持ちで挑んだインカレでした。結果としては得点で何も貢献できず、情けない形で終わってしまいました。しかし、副主将として総合優勝に向けてやるべきことは、「選手の役目」だけでないと、前を向いて戦っている皆の姿を見て気づくことができました。そして、チームとしては総合優勝という形で終わる事ができ、非常に嬉しく思うと同時に、感謝の気持ちが溢れ出しました。こんなに、悔しくて嬉しかったインカレは初めてでした。

*陸上競技部は男女で一つのクラブ組織であり、男子が主将の時は女子主将に相当する役職は「副主将」となります。

「旬」は4ページへ続く

【特 集】 恩師 金子 明友 先生を偲ぶ

加藤澤男（昭和40年体育学部入学）

昨年末、令和6(2024)年師走24日、恩師、金子明友先生が97歳の天寿を全うされました。私は年明け早々にその知らせを聞き、例えようの無い喪失/虚無/孤独の入り混じった感慨に襲われました。先生は日本の体操競技「オリンピック5連勝」という金字塔を築き、身をもって我々世代に体操競技のあるべき方向をお示くだされたからです。

金子先生は昭和2(1927)年8月福島県須賀川で誕生され、大学は東京高等師範学校で、卒業は昭和24(1949)年です。当時は、第二次大戦終結と学校制度改革とが重なり、大変複雑な時期でした。東京は空襲で焼け野原。練習場も食べ物も無く、戦後の一番苦しかった時期が先生の学生時代でした。それにもめげず、先生は日本の復帰が許されたヘルシンキオリンピック(1952年)に出場されました。この時の日本チームは、選手5名の最小限度の登録で、補欠もチームリーダーも無し。私は小学2年生の折、このチームを題名にした「5人の選手団」という巡回映画を見た記憶があります。今思えば、体操競技のことは何も知らず、後に金子先生と出会うことなど想像だにできなかった頃のことです。また、この大会は、ソビエト連邦が近代オリンピック史上初めて参加した大会でもあり、体操競技のみならず、その実力は世界中に知れ渡っており、「鉄のカーテン越しの参加」などと世界中から注目された大会でもありました。

金子先生は大学卒業後、桐朋学園男子校に奉職され、ヘルシンキ大会ではソ連の脅威的な体操を目の当たりにし、次のメルボルン大会(1956年)はチームリーダーで参加し、善戦するもソ連には及びませんでした。その後、IOC総会でオリンピックの東京開催が決まり、日本中が高揚し、ローマ大会(1960年)ではソ連を破り、見事世界一に輝きました。そして次の地元東京大会(1964年)では、先生は日本の強化のみならず、体操競技運営実行の地元総責任者として国際関係の仕事にも関わることになりました。そんな事情から先生は母校に当たる東京教育大学に赴任されたように思います。1964年の東京大会では小野、遠藤、三栗らの同窓選手が活躍し、日本チームは地元東京大会で連続二度目の優勝を果たし、さらにその後も、メキシコ(1968年)、ミュンヘン(1972年)、モントリオール(1976年)と5大会連続優勝の快挙を成し得たのです。世界の技術発展動向を熟知した金子先生が居られたからこそその成果なのです。この連勝の後半、金子先生は国内中心の活動から、今度は国際体操連盟の技術実行委員として活動され、モスクワ大会(1980年)までIF（注：国際体操連盟）の役員として世界中を駆け回っておられました。

他方、国内では昭和30年代後半、国会で新大学法案が可決され、新構想大学が動き出しました。当時の東京教育大学は、本校/体育学部/農学部が都内に点在した大学でしたが、それらを一箇所に集め、さらに医学部を加えて新しい総合大学を作るというものです。筑波に土地を求め、昭和48年に筑波大学の一期生を迎え、新しい大学が軌道に乗るまでの当時の先生方の苦労は想像しがたいものがあります。世界レベルの総合大学創建と、その運営が軌道に乗るまでには、優に30年以上の歳月を要しました。

また、年代は不確かですが、筑波大学の運営がある程度軌道に乗り、金子先生が副学長時代の事です。先生の学生時代は都心が焼け野原。卒業証書の授与も無いまま、卒業生は全国に散らばったとのこと。金子先生が全国に散った同級生と連絡を取り、筑波大学の事務方に交渉し、半世紀以上も前の自分達の卒業証書授与式を行ってもらったという出来事がありました。その時、先生は既に定年の年齢に達しておられました。

金子先生はヘルシンキ大会でソ連のトレーニングに触発され、調査/研究とあらゆる工夫/努力をされたがゆえに、日本体操チームのオリンピック5連勝という大記録が樹立できたのです。他方、先生は幡ヶ谷時代から人間の運動の基底に関わる学問にも取り組んでおられました。私の学生時代、先生のドイツの友人Dr. J. Göhlerさんが金子先生宛てにある本を託したドイツ人商社マンに会うため、私は赤坂のホテルへ先生に同行したことがあります。その本は、何とWeizsäckerの「der Geschtalt Kreis」だったのです。先生はマイネル運動学の紹介を始め、多くの著書を世に送り出しておられますが、晩年は三鷹の御自宅に籠り、「スポーツ運動学」の完成に勤しんでおられたようです。そして、何と、旅立ちの3日前まで原稿に手を加えておられたとのこと。

私は先生の薫陶を受けていながら出来の悪い弟子ですが、茗体会の皆様、私の知る金子先生的一端をご紹介します。恩師金子明友先生の御冥福をお祈り申し上げる次第です。

「夢があるから強くなる」

公益財団法人日本サッカー協会名誉会長

田嶋幸三 (S55 筑体卒)

■変化や非難を恐れない

筑波大学の宣揚歌「桐の葉」にある「桐の葉は木に朽ちんより 秋来なば先駆け散らん」。ここには、日本の教育を担う高等師範学校が尊重されないのであれば廃校も辞さない、という強い思いが込められています。これは、自分たちがやっていることが間違っている、悪い方向へ進んでいると思ったらそれをすぐに改めなさい、ということと理解しています。

日本サッカー協会 (JFA) の理念は「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」ことで、これは未来永劫変わるものではありません。しかし、それを具現化する方法はその時代に合った方法があつて然るべきで、理念の実現に必要なことであれば、変化や批判を恐れず、実行しなければなりません。

JFA の会長を務めた 2016 年からの 8 年間、JFA の新たな成長モデルの構築とガバナンス強化を進める中で、時に難しい判断を迫られることもありました。

2018 年、FIFA ワールドカップロシア大会を 2 カ月後に控え、日本代表監督との契約解除を決断したことは忘れ難い思い出です。この決定については賛否あり、非難も浴びましたが、結果的には西野朗監督の下でチームが団結し、日本は本大会ラウンド 16 でベルギーにあと一步に迫る活躍を見せました。

8 年間のうちの約半分はコロナ禍の影響を受けながらの舵取りでした。サッカーの火を消してはならないと、“まちクラブ”の救済や継続的な復興支援などに力を注ぎできました。2019 年は、女子サッカーのプロ化に向けて動き出した年です。世界的にほとんど成功例のない女子のプロリーグを創設するということは、ある意味、賭けでもありましたが、開幕して 4 シーズン目となる 2024-25 シーズンは年間最多入場者数 33 万 7290 人を達成するなど、WE リーグの存在を国内外に発信することができました。

2020 年には、JFA 自前のナショナルトレーニングセンター「高円宮記念 JFA 夢フィールド」(千葉県)が完成しました。この施設は、日本代表の練習や指導者・審判員の養成はもちろん、テクニカルやスカウティングの知見、医科学的データなど最新の情報を収集・分析し、それを 47 都道府県サッカー協会や各リーグ、ひいてはアジア、世界へと発信するヘッドクォーター (司令部) の機能を持ちます。この施設がなかったら 2022 年の FIFA ワールドカップカタール大会の日本チームの躍進はなかったはずです。

■夢があるから強くなる

「夢があるから強くなる」は JFA の理念を推進するためのスローガンで、私が大切にしている言葉です。吉田松陰も「夢なき者に理想なし 理想なき者に計画なし 計画なき者に実行なし 実行なき者に成功なし 故に夢なき者に成功なし」という名言を残しています。

「JFA2005 年宣言」で“2050 年までに FIFA ワールドカップで優勝する”と発表したとき、多くの人たちが荒唐無稽な幻想だと思ったでしょう。しかし、カタール大会でドイツ、スペインを破った SAMURAI BLUE (日本代表) にとって、もはや「ワールドカップ優勝」は実現不可能なものではなくなりました。次のワールドカップでは一段と進化した SAMURAI BLUE が見られると確信しています。

今、地球温暖化や少子化、SNS などによる誹謗中傷といった問題がスポーツ界にも大きな影響を及ぼしています。スポーツの発展を支えてきた中学校部活動も過渡期にあります。しかし、夢を諦めず、困難に立ち向かうことで道はひらけてくるはずです。

サッカー界で 40 年近く活動をしてきました。JFA の技術委員長、専務理事、会長、アジアサッカー連盟理事、FIFA (国際サッカー連盟) 理事など、どの任に就いても常に理念とミッションステートメントに基づいて決断し、改革を行ってきました。そのベースに宣揚歌「桐の葉」があり、悩んだときはその歌詞を思い出し、決断してきました。「桐の葉」には私たち茗溪会の DNA が沁み込んでいます。この宣揚歌があつたからこそ、今の自分があると考えています。感謝しています。



【男子剣道】 第73回関東学生剣道優勝大会で優勝！
 【バドミントン】 東日本学生バドミントン選手権大会で男女ともに優勝！
 【柔道】 全国国立大学柔道優勝大会で男女ともに優勝！
 【女子ハンドボール】 秋季リーグ戦全勝優勝！ 伊藤結衣（体育4）が最優秀選手賞を受賞！

【柔道】全日本学生体重別選手権大会
男子 白金宏都（体育3）優勝 女子 谷岡成美（体育4） 福永葉子（体育1）が優勝！
【弓道】関東学生弓道選手権大会決勝大会 団体戦 女子優勝！
個人戦 男子 柴田幸次郎（体育2） 女子 小川貴子（体育4）が優勝！

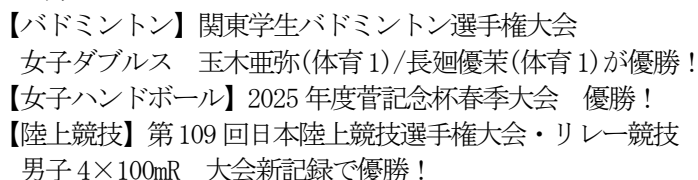
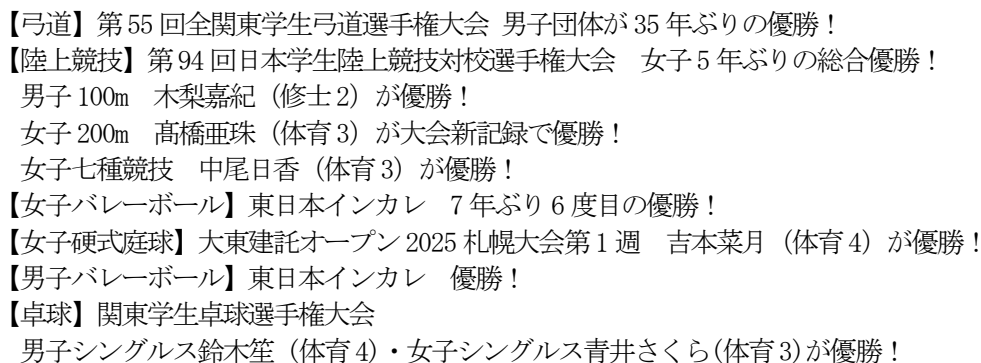
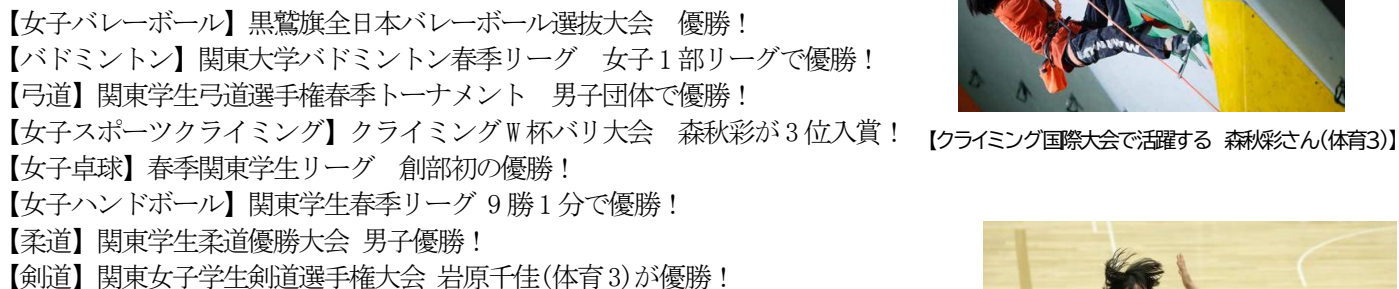
【柔道】講道館杯全日本体重別選手権大会 男子73kg級 田中龍雅(体育2)が優勝！
 【硬式庭球】全日本大学対抗テニス王座決定試合 女子2年連続3回目の優勝！
 【硬式庭球】関東学生テニス選手権大会 男子シングルス 田中佑(体育3)選手が優勝！ 2連覇達成！

【女子バレーボール】インカレ 2年連続10回目の優勝！
中村悠(体育4)選手が最優秀選手賞 リベロ賞受賞！ 本田凜(体育3)選手がブロック賞
熊谷仁依奈(体育2)選手がセッター賞 MVP 賞受賞！

【男子柔道】全日本学生柔道 Winter Challenge Tournament 2025 花岡晴琉(体育3)田窪剛共(体育1) が優勝！

【女子スポーツクライミング】リードジャパンカップ2025 森秋彩(体育3)が優勝！ 6連覇を達成！

【男子ラグビー】東日本大学セブンズラグビーフットボール大会 優勝！
 【陸上競技】日本学生陸上競技個人選手権大会 各競技で好成績！
 女子 200m で高橋亜珠(体育3)が優勝！



【陸上競技部 男子4×100mR 大会新記録で優勝】

【ダンス】第37回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）

創作コンクール部門 文部科学大臣賞を受賞！ 作品名 イマジナリーナンバー「i」ー虚像社会で誠実に在るー



感謝 —令和6年度報告—

会長 宮下 憲 (S45 教体卒)

会員の皆様へ

皆様の温かいご支援とご協力のお陰で昨年度も本会初期の目的をほぼ達成することができました。

昨年度の決算では総会開催年としては久し振りに黒字となりました。寄付者のご厚意に衷心より感謝申し上げます。

特に、昨年度は以下の主要要因により、財政状況が好転したことをご報告いたします。

第 1 に、多額の寄付が寄せられたこと。昨年度は寄付者の減少が見込まれ、これ迄の全会事業を継続していくために、寄付金の最低額を 3,000 円以上とさせていただきました。その結果、寄付者数は予測通り減少しましたが、寄付金の平均額が 4,000 円余りと増加し、総額では 100 万円を超え黒字化の要因となりました。

次に、経費を削減するための様々な取り組みを実施。その一環として苦渋の決断で伝統的に茗溪会館で開催されてきた総会会場を新宿に変更し、更に総会資料の手作り、総会集合写真の簡素化、メールの推奨による筑大卒生連絡方法の工夫等を行ない運営経費の削減に努めました。

以上から、年度内の収入と支出の差はおよそ 11 万円の黒字になったことをご報告致します。

一方、今後の課題も浮上しました。

寄付者数が減少する傾向を止めることができませんでした。寄付金の金額を引き上げたこともあり、多くの退会者が出たこと、またその中に多くの寄付者が含まれる結果となったことは残念であります。今後も本会の在り方と共に寄付者の皆様に対する説明責任をより一層果たし、寄付のハードルを下げする方法も視野に入れ検討して参ります。

本年度は本会の主要な支出である総会の案内とその報告や機関誌である「茗体会だより」などの印刷費や送料を見直し、更なる経費削減に努める所存です。今年度に入り、茗溪会からは季刊誌「茗溪」に本会機関誌を含めた印刷物を一緒に送付してはいかかかというご提案もあり、来年度に向け鋭意検討して参ります。

また昨年度は本会会員の基本的な関わり方について、本会会員を継続か退会するかという意向調査を実施しました。これまで入会の意志を伺うことも無く会員扱いして参りましたが、今回の調査で会員としての位置付けを明確にすることができました。

総会では、これまで大学や体育専門学群の現状についての講話会を開いてきました。昨年は副会長である野村良和名誉教授から筑大卒業生の進路先についてご講話があり、教職に就く学生が近年では10%を切っている現状が紹介されました。今後本会の在り方を考え直す機会ともなりました。

最後に、本会の運営を通して、皆様の母校や同窓生を思う強い気持ちを痛感しております。特に我々体育系では所属していたクラブ毎のOB・OG会が伝統的にまとめり後輩の活動を支援していることに加え、クラブを越えてしかも65歳を越えた人たちが集う本会に対し未だに熱い想いを寄せていただき、その原点について役員一同いつも想いを巡らし感謝しつつ務めております。

皆様のご厚意が、本会の継続と活動の原動力となっております。これからもシニア同窓会に相応しい交流の場として継続できるよう運営して参りますので、変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



総会提案事項の解説と本会活動に関する依頼事項

幹事長 古山 光久 (S50 教体卒)

○総会提案事項の解説

1 令和6年度会務・会計・監査報告

- ① 事務局会・役員会の開催
- ② 総会案内の発送総数 = 3,186 名 返信総数 = 596 名 寄付者総数 = 252 名
- ③ 会計・監査報告 収入の部 総収入 1,924,520 円 (繰越金 577,477 円、寄付金 1,037,000 円他)
支出の部 総支出 1,924,520 円 (年度内 1,242,546 円、繰越金 681,974 円)
主な支出項目 (送料 491,854 円、印刷費 254,844 円、記念品贈呈費 91,144 円)

2 令和7年度活動計画・会計中間報告案

- ・今年度の総会・懇親会は11月22日(土)に開催します。
- ・「茗体会だより」第5号を発行します。今回も総会案内を含めて作成しています。
- ・記念品贈呈者(卒寿者のうち本会に貢献のあった方)は16名を予定しています。

3 「茗体会だより」の発行と編集方針について

- ・「茗体会だより」の発行も今回で第5号となりました。昨年はオリンピックイヤーであることを鑑み、内容の充実を図りました。今年も一層の内容の充実に努めていきたいと思っています。

4 総会における講話について

講話「体育専門学群生の卒業後の進路とその選択の理由」

採用コンサルタント/採用アナリスト 谷出 正直 (H15 筑体卒)

○本会活動に関する依頼事項

1 寄付金振込のご依頼(同封の郵便振替用紙又はATM、ネットバンキング利用)

本会は会費を徴収しない任意団体です。3,000 人を超える会員への通信連絡費及び会務運営費等は賛同していただいた方の寄付金で賄われています。今後は筑波大学卒業生の会員が増加していきますが、寄付者数は令和3年度460名、令和4年度430名、令和5年度310名、令和6年度252名と減少傾向です。

郵便料金が値上げされた今、経費節減は喫緊の課題としてとらえ、メールやライン等の活用を積極的に進めています。昨年度は会員の皆様にこの状況をご理解いただき、寄付金として **3,000 円以上** をお願いすることとなりました。本年度も会の窮状をご理解の上、引き続き **3,000 円以上** のご寄付をよろしくお願いいたします。

寄付金をいただいた方については、12 月頃に送付する総会報告に掲載させていただきます。

2 近況報告記載のご依頼 (Google フォーム又は同封の返信ハガキ利用)

本会の主たる目的は、会員相互の親睦を深めることにあります。先ずはご自身の近況を伝えて頂くことが、相互理解を深める第一歩となります。同封の返信ハガキへの記載、又は QR コードを活用して Google フォームへの入力をお願いします。近況報告だけでなく、本会及び「茗体会だより」へのご要望等忌憚のないご意見をお寄せください。なお、頂いた近況報告は一覧にして、12 月頃に送付する総会報告とともにお届けします。

3 メール等による情報伝達へのご協力依頼(筑波大学卒業生並びに東京教育大学卒業生)

一昨年度、立ち上げた「情報管理委員会」は、情報管理担当役員2名を割り当て、より良い情報伝達方法を検討しています。昨年度は、茗体会会則に則り、情報管理に精通した会員を相談役として委嘱しました。より効果的な情報連絡体制の構築に努めますので、引き続き学年幹事へのご協力をお願いいたします。特に東教大卒の皆様にも Google フォームの活用にご協力ください。

4 筑波大卒業生の新規加入について

今年度は筑波大学卒業生(6期生～)が加入して参ります。1～5期生の方々には、6期生以降の方々へ茗体会の存在、学年幹事の選任の周知、協力をお伝えいただきたくお願いいたします。



新会員の皆様へ

「茗体会」って、なんの会？ どんな会？

新会員の皆様、はじめまして！

今回、突然『茗体会だより』が送られてきて驚かされている皆様、また昨年初めて『茗体会だより』をご覧になった皆様、きっと『**茗体会**』ってなんだ？』と思われているのではないのでしょうか？
この紙面を借りて、「茗体会」について少し説明させていただきます。

「茗体会」は、筑波大学の前身である東京教育大学、及びその前身である東京高等師範学校の体育学部、体育科の卒業生、更に令和2年度からは筑波大学体育専門学群の卒業生も加わった「**茗溪体育のシニア同窓会**」です。加入の目安は概ね65歳以上としています。

「茗体会」では、通常活動としては、年1回の「総会・懇親会」開催、年1回の機関紙『茗体会だより』発行、卒寿者への記念品贈呈などを行っています。『茗体会だより』や「※総会報告」は、その紙面を通して交流の場ともなっています。（※内容は下記参照）

また、これまで節目の年には「茗溪体育 80 周年記念誌」「茗溪体育 100 周年記念誌」などの「記念誌」の発行も行ってきました。「茗溪体育 80 周年記念誌」は高等師範学校体育科の歴史、「茗溪体育 100 周年記念誌」は東京教育大学体育学部の歩みを記しています。

今後は、筑波大学卒業生を加えたことを活かし更に発展できる活動を検討していきます。

「茗体会」は、**基本的には「同窓会」**です。加入の資格や要件は無く、卒業生全員が有資格者になっています。したがって、「総会・懇親会」のご案内を含め『茗体会だより』は、連絡先が分かる全ての卒業生の皆様に送っています。もし「入会しない」「案内不用」等のご希望がある場合にはご連絡ください。以後のご案内、連絡は控えさせていただきます。

「※総会報告」（総会・懇親会のご報告及びご協力御礼）には次の内容が含まれています

◎ 昨年の「総会・懇親会のご報告及びご協力御礼」でお届けした内容

- ・総会報告
- ・発送・返信状況、寄付者数一覧
- ・寄付者名簿（一覧）☞（紙面掲載時）令和6年度は発送準備の段階で241名
- ・総会出席者（一覧）☞ 令和6年度は32名
- ・近況報告及び要望等自由記述（一覧）☞（紙面掲載時）令和6年度は348名 *下記参照
- ・本人記入欄に氏名記載者〔近況報告なし〕（一覧）☞（紙面掲載時）令和6年度は272名

◎ 昨年の「近況報告」一部紹介

53 筑体	◎◎	岐阜	後輩の活躍を楽しくたのもしく見聞しています。毎朝3種類の薬を飲みながら、それなりに元気に生活しています。
54 筑体	◎◎	宮城	人口減少の激しい自分の古里でボランティアと趣味、そして墓守かな(?)をしています。
55 筑体	◎◎	岡山	現在は（公財）倉敷市スポーツ振興協会に勤めて、市民へのスポーツ事業を提供しております。
56 筑体	◎◎	千葉	ご案内ありがとうございます。開学から40年勤務した〇〇大学を来年3月で定年退職します。
57 筑体	◎◎	熊本	大学同期である尾縣貢君の寄稿は・・・嘉納先生そして茗溪、茗体の精神が満ち溢れた内容で、強く感銘を受けました。有り難うございました。



令和7年度 茗体会 総会・懇親会のご案内

初秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝でお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、今年度の総会、懇親会を下記の日程により開催することと致しました。

筑波大学との接続が実現し、東京高等師範、東京教育大学、筑波大の卒業生が茗溪の名のもとに一体となった組織として「総会・懇親会」が行われています。今回は、筑波大学の6期生を迎えます。この会が更に発展する基盤を築いていけるよう、多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

記

日 時 令和7年11月22日(土) 12時～14時45分 (受付開始: 11:45)

場 所 グレースバリ新宿3階「アロナ」 <https://www.grace-bali.com/shop/shinjyuku/enkai/>

総 会 新宿駅(東口)徒歩5分 新宿区役所の2つ先のビル (会場: 上記URL)

- 1 会長挨拶
- 2 令和6年度会務報告、会計・監査報告
- 3 令和7年度活動計画、会計中間報告、役員紹介
- 4 講話「体育専門学群生の卒業後の進路とその選択の理由」

採用コンサルタント/採用アナリスト 谷出 正直 (H15 筑体卒)

懇親会 懇談、歓迎・入会スピーチ、宣揚歌等

会 費 10,000円 (懇親会費・集合写真代・記念品代・通信連絡費など)

*欠席の方で、趣旨に賛同され寄付金にご協力いただける方は1口3,000円以上の協力をお願いします。(振込は10月末まで) 通信欄に「寄付」、参加者は「会費」とご記入ください。

<出欠及び近況報告等の連絡について>

次のいずれかの方法でご連絡ください。

- ① 右のQRコード (又は右下URL) からGoogleフォームに入力する。
- ② 同封の返信ハガキを郵送する。(85円をご負担ください。)

*準備の都合上、総会の出欠のお返事は10月末までお願いいたします。



<総会会費・寄付金の振込方法についての連絡>

*振込は、次のどちら方法でも可能です。

- ① 同封の郵便振替用紙利用 郵便局のATMも利用可能です。
- ② 銀行・コンビニのATM利用、ネットバンキング利用 下記を確認し送金してください。

銀行名: ゆうちょ銀行 店番: 〇一九 口座番号: 当座 0562311

口座名: 茗体会

振込人氏名【例】 S50 タイ フルヤマミツヒサ カイヒ (学科の後は1マス空けて氏名記入)

和暦(S)卒業年+学科 (体育→タイ/武道→ブ/健康→ケン) 筑波大卒はツク

<https://forms.gle/Hu4mq67jZ8kV2i4m8>



今回は、日本のスポーツ界を牽引されてきた方にスポットを当てました。スポーツの発展に尽力されたその生き様と信念の中に茗溪の魂を強く感じました。ご寄稿いただいた加藤様、田嶋様に心から御礼申し上げます。

今春、卒業以来、初めての4期生同期会を筑波大学学生会館で開きました。一瞬にして学生時代に戻り、笑顔で語り合った2時間でした。(広報担当)

※「茗体会だより第4号: パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会特集」

の結果に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

サッカー女子/8位入賞→5位入賞 バレーボール男子/8位入賞→7位入賞

